

製品名: RIP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17207**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	RIPK2 RIPK2; CARDIAK; RICK; RIP2; Receptor-interacting serine/threonine-protein kinase 2; CARD-containing interleukin-1 beta-converting enzyme-associated kinase; CARD-containing IL-1 beta ICE-kinase; RIP-like-interacting CLARP kinase; Receptor-in
別名	
遺伝子 ID	8767.0
SwissProt ID	O43353
免疫原	抗血清はヒト RIPK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 146-195

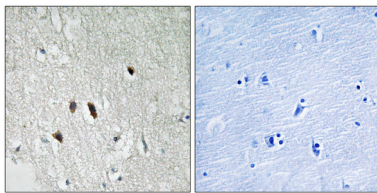
背景

この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼの受容体相互作用タンパク質 (RIP) ファミリーのメンバーをコードします。コードされるタンパク質はC末端カスパーゼ活性化・リクルートメントドメイン (CARD) を含み、自然免疫経路と獲得免疫経路の両方におけるシグナル伝達複合体の構成要素です。NF-κB の強力な活性化因子であり、様々な刺激に対するアポトーシス誘導因子です。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: プロカスパーゼ1 およびプロカスパーゼ8 を活性化します。CASP8 を介したアポトーシスを増強します。NF-κB を活性化します。PTM: 自己リン酸化されます。DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: プロテインキナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのCARDドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CFLAR/CLARP および CASP1 のCARDドメインを介して結合する。BIRC3/c-IAP1、BIRC2/c-IAP2、TRAF1、TRAF2、TRAF5、および TRAF6 に結合。TNFRSF1A および TNFRSF5/CD40 受容体複合体の両方の構成要素となる可能性がある。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、末梢白血球、脾臓、腎臓、精巣、前立腺、膵臓、およびリンパ節で検出される。

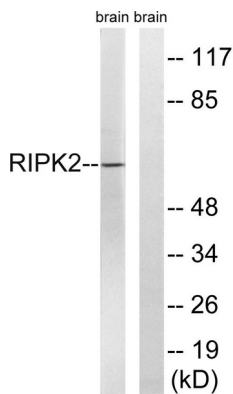
研究分野

NOD 様受容体;神経栄養因子;

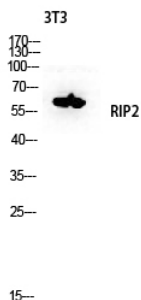
画像データ



RIPK2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RIPK2 抗体を用いたラット脳細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RIP2 抗体を用いた 3T3 溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。

